

書写力向上をめざして

—基礎・基本とその応用—【第23回】

「書写の要素」について ②② 〈字形(6)〉

山梨大学大学院教育学研究科教授

宮澤 鷺州

点画^{てんかく}が二つ以上ある文字を書く場合、点画の位置関係はそれぞれが離れるか、接するか、交わるかの三種類となります。今月号では、主に「点画の接し方」の種類を抽出^{ちゅうしゅつ}し、分類します。



字形の整え方(五)

(1)点画と点画の位置関係

文字において、点画と点画との位置関係は、離れる、接する、交わるの三種類があります。次に三種類の字例を挙げてみましょう。

○点画が接する例

ア・エ・ケ・タ・ヨ
ロ・山・竹・音

〈漢字・片仮名〉

○点画が離れる例

三・八・川・心
ソ・シ・ツ・ハ・ミ

○点画が交わる例

九・十・カ・女
キ・サ・セ・ヌ・ヤ

〈平仮名〉

○点画が離れる例

い・う・え・こ・に・ふ・ら・り



○点画が接する例（平仮名の字例は四例のみ）

と・の・ほ・よ

○点画が交わる例

あ・き・せ・ち・ぬ・ね・ま・を

点画が離れる場合は、どの程度その距離をあけるかが、字形に影響を与えることとなります。点画が交わる場合は、交わる位置や角度・分割比率などが、字形に影響を与えます。

さて、点画が接する場合はどうでしょうか。

点画の接し方については、書写の教科書でも取り上げられ、字形を整えるための要素として重視されています。「口」「日」などの字例によって接し方が説明されることが多いのですが、実は、点画の種類や接する場所によってそれぞれの接し方には多くのパターンがあり、図形的に接していればよいというわけにはいきません。特に、線に太細が生じる毛筆の場合は、接する部分に「深・浅」の要素が加わり複雑化します。さらに、接する部分が離れてもよいとされる許容の書き方も存在し、漢字書き取りの評価などでもしばしば混乱が生じています。その意味でも、点画が離れる、交わる場合よりも、接する場合の方が難しい要素と言えるでしょう。

(2)点画の接し方の意義について考える

ある小学校における書写の授業研究会（四年生、教材：毛筆「日」）でのことでした。画の接し方をテーマにした授業が終了した後、反省会が行われました。授業者の自省の後、指導的立場にある方から次のような感想が述べられました。

「書写の授業では、こんなことを取り上げているのですか。画の接し方がどうのこうのと、あまりにも細かいことを取り上げすぎる。少しくらい点画が出て出なくてもたいしたことではない。もっと子どもらしくのびのびと書かせたらよいのではないですか」

これに対して、授業者は困惑して反論することができませんでした。

指導的立場にある方の、書写に対する考え方に同意しかねることは言わずもがなですが、これに反論することができなかった授業者にも大きな問題があります。

授業者は、そもそもなぜ、点画の接し方を取り上げたのでしょうか。接し方を学習することの目的や意義はどこにあったのでしょうか。その理由や目的を明確にしないまま授業に臨んだことを露呈してしまっただかのようなのです。

そこで、授業者の立場になり代わって、反論してみましよう。

「点画の接し方は、文字を正しく整えて書く上できわめて重要な学習内容です。例えば、次のような漢字を書いていたらいかがでしょうか。

王 ↓ 一十一（二十一に読める）

王（一土に読める）

王（一キに読める）

日 ↓ 日（日が月に読める）

月 ↓ 月（月が日に読める）

火 ↓ 火（火が大に読める）

水 ↓ 水（水が木に読める）

木 ↓ 木（木がホに読める）

接し方に対する意識が乏しいと、このような曖昧な文字が出現する可能性があるのではないのでしょうか。確かに、接し方が多少曖昧に書かれても文字として認識できる場合があるかもしれませんが、しかし、すべての文字がそうであったとしたら、読みにくくなったり、誤読されたりすることにつながるのではないのでしょうか。文字の習得過程に

ある児童にとって、点画の接し方について学ぶことは、正しい字体や整った字形を認識する上で不可欠なことです。これらの学習を通して、文字を正しく書く意識を高めてもらいたいと考えています。その上で、のびのびと書くことを奨励したいと思います」

点画の接し方は、文字を書く過程において迷ったり神経を使ったりする部分です。だからこそ、どのように接したらよいかを理解しておくことは、文字を正確に素早く書く機能につながっていくものと考えます。

(3)点画の接し方のパターン

漢字における点画の接し方にはどのようなパターンがあり、どのパターンが多いのでしょうか。接し方の指導方法や教材を選択する上で、これらを把握しておくことは重要です。

山梨大学院の福田修己氏は『小学校学習漢字における点画の接し方に関する研究』（注）において、小学校で学ぶ漢字（以後、「学習漢字」とする）1006字（標準字体となる教科書体によって調査）を対象に、点画の接し方のパターンをすべて抽出し、頻度数によるランキングを試みています。福田氏の調査研究から得られたデータ

を基に、点画の接し方のパターンを紹介します。

「競」の字で、20カ所存在する。

○学習漢字1006字の内、点画が接する部分は、6147カ所に及び、1字について平均6.1カ所の接する部分が存在している。

○もっとも多くの接する部分を持つ学習漢字は



表1

順位	点画の接する位置関係	該当箇所数	字例による位置	部位の図
1	送筆部に始筆部が接する	一九三七	「丁」の一・二画目	
2	終筆部に送筆部が接する	一〇八〇	「土」の二・三画目	
3	始筆部に始筆部が接する	九七八	「口」の一・二画目	
4	終筆部に始筆部が接する	六五三	「口」の一・三画目	
5	終筆部に終筆部が接する	六二三	「口」の二・三画目	
6	送筆部に終筆部が接する	五七三	「田」の二・四画目	
7	始筆部に送筆部が接する	七四	「及」の一・二画目	

表2

順位	点画の種類と接する位置	該当箇所数	字例	部位の図
7	縦画(送筆) ↑ 縦画(始筆)	三〇 一〇 五・〇四%	「丁・可・悪」など	
6	縦画(終筆) ↑ 横画(送筆)	三九 一 六・二六%	「土・決・正」など	
5	縦画(送筆) ↑ 横画(終筆)	四八 七 七・九二%	「日・当・骨」など	
4	縦画(終筆) ↑ 横画(始筆)	五三 九 八・七七%	「口・官・印」など	
3	縦画(送筆) ↑ 横画(始筆)	五四 一 八・八〇%	「日・貝・臣」など	
2	縦画(終筆) ↑ 横画(終筆)	六〇 五 九・八四%	「口・日・書」など	
1	縦画(始筆) ↑ 横画(始筆)	六二 四 一〇・一五%	「口・史・鳥」など	

○点画の始筆、送筆、終筆それぞれが接する部位に関しては、始筆と始筆、送筆と始筆などさまざまな組み合わせパターンがあるが、「丁」字のように、送筆部に始筆部が接するものが1937カ所で最も多い。なお、送筆部と送筆部

が接するパターン、始筆部に終筆部が接するパターンは存在しない。それぞれ接する位置関係のパターンの種類と上位7位を示すと前頁の表1のようになる。

○どのような点画が、どのような点画と、どの部分で接しているかという、点画同士の組み合わせは106種類存在する。上位7位までを示すと左の表2のようになる。

この調査・研究により、縦画に横画が接するものが多いことがわかります。特に字例として挙げられた「口・日」に基本的パターンが含まれていることがわかります。教科書で「口・日」が取り上げる理由も納得できる調査結果と言えるでしょう。

(注) 福田修己『小学校学習漢字における点画の接し方に関する研究』(山梨大学大学院教育学研究科修士論文、2014年度)。
福田氏は現在、山梨県立山梨高等学校講師・山梨大学教育人間科学部附属中学校講師。

